

TOTTORI RYOKUSUI DAYORI

とっとり 緑推だより

NO.29

2012.1発行

社団法人 鳥取県緑化推進委員会

〒680-8570 鳥取市東町1丁目220番地鳥取県農林水産部森林・林業総室

TEL 0857-26-7416 FAX 0857-26-8192

E-mail:info@tottori-green.or.jp URL:<http://www.tottori-green.or.jp>

■会員の現況平成24年1月末現在 ●正会員114名 ●賛助会員76名 ●特別会員1名

■平成23年度「緑の募金」実績

23,069,928円

緑の募金にご協力ありがとうございました。

平成23年度も多くの鳥取県民の皆様から多大なご協力をいただき、ありがとうございました。

緑の募金は、国土緑化運動の一環として、昭和25年に始まり、国土の緑化に大きく貢献してまいりました。平成7年には、「緑の募金法」が制定され、緑の募金に対する取り組みがさらに強化されました。

御承知のとおり、森林には、水源のかん養や空気の浄化、県土の保全など県民生活に欠かせない公益的機能があります。今回の東日本大震災では、大津波で家屋が流され、廃墟となった町の映像を目にしますが、人が住める生活環境を取り戻すには、緑の復旧が重要であると痛感いたします。

このことにつきまして、全国各県で集められた緑の募金の一部が、公益社団法人 国土緑化推進機構を通して、被災地の緑化の復旧に充てられています。

本県では平成23年10月、「第34回全国豊かな海づくり大会」が鳥取市を中心開催され、天皇皇后両陛下をお迎えいたしました。海と山は特別関係が深く、この大会を機に、漁業関係者の間でも森林整備に対する関心が高まり、実際に森林作業等も行われています。

また、平成25年春には、「第64回全国植樹祭」が「とっとり花回廊」をメイン会場として開催されますが、これを機に、県民の皆様により一層の緑化の大切さ、森林の大切さについて御理解を深めていただき、緑の募金や森林の整備にご協力いただきますようお願いします。

さて、23年度の募金目標額は、昨年度と同じ2,500万円に設定し、募金運動を盛り上げるため懸垂幕やテレビ、ラジオなどによるPRを行った結果、前年を91万円下回る2,307万円の募金額となりました。

東日本大震災の影響もあったかと思いますが、他県では募金額が落ちこんでいる中、対前年比96%の実績にふみとどまっており、県民の緑化に対する意識の高さを感じています。

募金の種類別実績は、

家庭募金 16,121千円

職場募金 3,501千円

学校募金 1,294千円、街頭募金 986千円、

企業募金 575千円

その他募金 593千円となっております。



皆様にご協力頂いたこの募金について、街頭募金、学校募金、家庭募金にかかるものは、65%を限度に、各市町村支部を通じて、緑化活動を希望する団体に助成金として交付し、地域や学校などの緑化に活用してもらい、他の募金についても、公募事業等により、各種団体やみどりの少年団等が行う森林づくりや緑化イベントなどの助成金として交付しました。

「緑の募金」の使途につきましては、外部委員からなる「緑の募金等運営協議会」の意見を聞きながら、適切かつ有効に活用するよう努めています。今後ともより一層のご協力をよろしくお願いします。

■学校緑化推進事業

創立25年を迎えて「花も実も楽しめる学校に」

鳥取市立美保南小学校 校長 藤井 健

昭和62年4月に新設された美保南小学校が、早いもので創立25年を迎えることになりました。

創立時は432名の児童数でスタートしました。しかし、その後の学校周辺の急激な宅地化等により、児童数は増加の一途をたどりました。

児童数の増加に対応すべく、平成21年には待望の増築校舎が完成し、同年6月に校舎増築竣工式を行いました。



この増築工事で学校の周りの相当数の梅の木が、伐採され、本当に寂しい限りでした。この梅の木は、初代校長の発想で、春に桜より早く花が咲き、実を取り、実を使っての学習ができるようにと、約90本の梅の木を開校の年に植えられたのだそうです。本校で学んだ子ども達の思い出はこの梅の木の成長と共にありました。



この程、社団法人鳥取県緑化推進委員会の学校緑化推進事業により梅の木を購入し、育友会、地域の皆様と1年生が共に創立25周年記念として植樹を行うことができました。

美保南小の梅の木が、本校で学んだ子どもたちの思い出となり、いつまでも子どもたちの成長を温かく見守ってくれることを願っています。

■地域緑化推進事業

鷺峯神社周辺の里山再生

河内川の会 土橋 敬明

私たちの住む小鷺河地区は、鹿野町でも中山間地と言われる過疎地域に位置し、とりたてて大きな産業や観光資源があるわけではありません。

河内川を源流へと辿れば、標高921mの鷺峯山へと続き、麓の鷺峯（じゅうぼう）集落に鷺峯神社という神社があります。ここには、江戸末期に活躍した石工「川六」の代表作と言われる「柔軟な顔をした狛犬」が鎮座しています。神社境内には、椎やケヤキなどの立派な巨木が残されてはいるものの、手入れがされず藪の発生源となっていました。そこで地域の有志が集まり、鬱蒼とジャングルのようになってしまった境内の森をきれい



にし、紅葉の名所にしようと緑化推進事業に取り組みました。

作業の甲斐あり、今では巨木からの木漏れ日が差し、風も爽やかに通り、本来の里山の風景が蘇りつつあります。数年後には「紅葉の綺麗な鷺峯神社」として更に親しんでいただけるのではと…関係者一同楽しみにしています。

折しも、ブータン国王が来日された際「国民総幸福量」という言葉が話題となりましたが、ブータンは環境保護政策が、もう何十年も前から世界最先端レベルにあるそうです。

最近、「地域の活性化」と皆が口を揃えて言います。確かに、様々なイベントを企画したりして盛り上げていくのも大事な事ですが、緑化推進事業のように何十年先を見越した地道な取組こそ、維持可能な社会に向けて最も大切な事ではないかと考えます。

鹿野方面に来られた際には、是非足を伸ばしてみてください。緑に囲まれた境内で、優しい顔をした狛犬が迎えてくれることと思います。

■緑の募金交付金事業

緑の募金活動が人々の心に潤いをあたえています ~倉吉市支部の取り組み~

交付金を活用した緑化活動

多くの人々の思いが込められた緑の募金ですが、使途の中心は緑化活動です。募金活動を行った団体が希望して交付金の還元を受け、各団体において様々な緑化活動が取り組まれていますのでご紹介いたします。



【小学校・中学校・高等学校での緑化活動】

学校における緑化活動は、花苗をプランターに植えて校内に飾ったり、校内の花壇に季節ごとに花を植栽するなどの活動が取り組まれています。ある少人数学校では、ひとりが二鉢を育てる活動を行っています。また他校では育てた花を運動会や卒業式などの学校行事に飾ったりしています。

緑化活動のなかで「花を植えて、きれいだな」という感想だけにとどまらず、植えた花を育てる過程でもいろんなことを学んでくれることも望んでいます。



【自治公民館での緑化活動】

自治公民館の緑化活動は、自治公民館ごとに行うものと、地域でまとまって公共施設を花で飾ったりしています。各町内会では花苗をプランターに植えて飾り、花壇に花、公園に樹木を植栽して緑化を行っています。地域全体では多くの人が活用する地区公民館を季節ごとの花で飾り、地域の人々を和ませています。

■平成23年度緑の募金事業

森林づくりの促進事業 ~自然を守り、森の役目の大切さの啓蒙に努める~

一向平森林保全協会 理事長 橋田 照雄

私達は、琴浦町の指定管理者として、琴浦町最南端に位置する一向平において、一向平キャンプ場など琴浦町営の3施設の管理運営を担当する他、一向平～大山滝～大休峠間の中国自然歩道（登山道）の点検、管理、整備など（登山道の補修、環境保全、草刈りなど）を主に業務としているボランティア団体です。

その他年間を通じ、公民館、学校、保育園や各種団体、グループの自然学習の案内など手伝いをし、森林の役目、大切さの啓蒙活動を展開しております。

今回は、平成16年に琴浦町合併記念樹林が、約4,000平方メー



トル設置され、植林された木々が豪雪や風雨により、ほぼ全滅状態になっていたため、ボランティア活動として、琴浦町農林水産課と協力し、緑の募金事業に応募し、オオヤマザクラ、ブナ、クヌギなどの植栽を基礎工事から始めて、8月～10月に延べ30人と重機を投入し、記念樹園を再生したところです。



数年後に成木となれば、桜の花見もでき、緑の森林公园が実施できると、将来を想像しながら10月末に完成しました。

今まで以上にたくさんの人々が、一向平で自然に親しんでいただけたらと期待しているところです。

みどりの少年団交流集会

「みどりの少年団交流集会」は、子どもたちが森林の中での活動や相互交流を通して、緑を守る大切さや健全な育成を目的として、毎年実施しております。

平成23年は、8月17日～19日の2泊3日で、大山町の県立大山少年自然の家において実施し、鳥取市神戸、倉吉市北谷、三朝町東、湯梨浜町羽合、琴浦町八橋、米子市（淀江、成実、箕蚊屋、車尾）の9小学校のみどりの少年団等、総勢82名の参加となりました。

天候にはあまり恵まれませんでしたが、大山少年自然の家の指導員の先生や引率の先生など多くの方々のご協力をいただき、下刈作業など実施できなかった活動等もありましたが、ほぼ予定通り実施することができました。少年団の皆さん元気に活動し、交流を深めることができたと思います。

1日目 ウッドクラフト

　　野外炊飯（パエリア）

　　星空の説明

2日目 自然観察

　　カヌー

　　キャンプファイヤー

3日目 大山寺、大山歴史館見学



■喜寿記念樹贈呈事業

長寿をお祝いし緑を育てることの大切さを次代に引き継いでもらうための「喜寿記念樹贈呈事業」を本年も実施しました。昭和9年生まれ（77歳）の方を対象に募集し、56名に贈呈しました。

記念樹は樹高80cm程度の「紅梅」で、喜寿記念樹の文字をあしらった段ボール箱に箱詰めし、10月5日に発送しました。

写真は記念樹を受け取られた方のお一人です。喜寿を迎えた豊富をお聞かせいただきと共に大変喜んでいただきました。



■第35回全国育樹祭が奈良県で開催される

第35回全国育樹祭が平成23年11月20日（日）

奈良県奈良市（平城京跡）で開催されました。

「古都からの あふれる緑 未来へと」を大会テーマに、県内外の緑の少年団や林業関係者約3,000人が参加して実施され、午前の式典では、平田健二大会会長（参議院議長）及び奈良県知事の主催者挨拶、奈良県議会議長の歓迎の言葉に続き、皇太子殿下から今年3月11日の東日本大震災に対して「災害からの1日も早い復旧・復興を願っています」とのお言葉がありました。続いて、緑化功労者表彰やみどりの贈呈があり、その後、皇太子殿下が、昭和58年に同所で開催された第32回全国植樹祭で、昭和天皇がお手植えになられたイチイガシの手入れを行われました。

続いて、みどりの少年団活動発表、誓いの言葉、大会宣言（循環型社会の実現、国民参加の森林づくり、森林づくりを担う青少年の育成）が行われ、来年度の全国育樹祭を静岡県に引き継いで大会が終了されました。

また、19日～21日の間に併催行事の緑の少年団活動発表大会、育林交流集会、森林・林業・環境機械展示実演会が開催され、多くの方が参加していました。



■緑の募金贈呈式

緑の募金贈呈式が県議会議長室及び県農林水産部長室で行われました。9月24日株式会社イブキ社長伊吹直様より鹿田副理事長に贈呈されました。(写真右) イブキブランド鶏卵パックのラベルに「緑の募金」ロゴマークを付け、その売り上げの一部を「緑の募金」として寄付されたものです。ありがとうございました。



12月6日、株式会社新日本海新聞社田中仁成執行役員営業局長様より伊藤理事長に贈呈されました。9月～10月の「緑の募金キャンペーン」にちなんで紙面掲載した「森林保全に関する特集記事」の一部収入を、県内の緑化事業に役立ててもらおうと寄付されたものです。ありがとうございました。

■緑と水の森林基金事業

木工工作キット配布事業

子どもたちに森林や緑の大切さ、木材の良さ等を知りていただくことを目的に、小中学校を対象に「木工工作キット配布事業」を平成23年度も実施しました。

昨年度に引き続き小学校、中学校を対象に本立てキットやスギ板を配布し、実施報告が届いております。

マイ本立てを作った子どもたちの感想は、釘を打つ難しさや電動糸鋸での加工の楽しさ、サンドペーパーを使って仕上げた木肌の触感、絵を描いて自分だけの本立てを仕上げた満足感、大切に使っていきたいなどとつづられています。



この事業が、子どもたちの緑を大切にする心や木材への関心に繋がることを期待したいと思います。

■平成23年度「森の名手・名人」の認定

森林の文化や技術の伝承を目指す「もりのくににっぽん運動」の一環として公益社団法人国土緑化推進機構が認定する平成23年「森の名手・名人」に、鳥取県からは森づくり部門の苗木づくりとして西伯郡大山町の市橋正行さんと同じく加工部門の家具・木工芸品・製材として八頭郡八頭町の柿田隆さんが認定されました。

認定証は10月11日、県議会議長室で伊藤理事長より伝達されました。



柿田
加工
部門
隆
さん

市橋正行さんは長年にわたり苗木生産に努め、生産技術の向上、後継者の育成に努められています。また、現在、鳥取県山林樹苗協同組合副理事長として組合員の指導も務められています。

市橋
苗木
づくり
正
行
さん



柿田隆さんは、自然の素材を活かした作風・加工技術において、本県でも類稀な存在であり、その技術は後世に残すべきものと考えます。地域の木工教室の講師を長年にわたり勤めるなど貢献されています。2人とも後継者育成に力を入れておられ、技術の伝承が期待されます。



■中国・四国地区緑化功労者が決定

第60回中国・四国地区緑化推進協議会（会長 伊藤美都夫）では、地域の緑化推進に特に功績があつた者（個人又は団体）を中国・四国地区緑化功労者として表彰しております。

この度「平成23年度中国・四国地区緑化功労者」6個人・2団体が決定され、11月10日（木）伊藤美都夫会長（鳥取県緑化推進委員会理事長）より米子市内のホテルで表彰状が伝達されました。

本県では、日野川水系漁業協同組合（代表理事組合長 佐藤英夫氏）様が受賞されました。同組合は、約600名の組合員から構成される内水面漁業協同組合であり、西日本最大の種苗センターを持っています。

近年、アユ等の漁獲量が減少するなど日野川流域の環境が悪化している状況の中、日野川流域の自然環境を保全していくため、渓流釣りシーズンの開始時、日野川一斉清掃や放流事業等の機会に河川清掃を行うなどの各種取組を実施しています。また、毎年、日野川下流に位置する米子市内の保育園や幼稚園と連携して稚鮎等の放流を実施し、園児等に対して日野川及び流域の森林の大切さをアピールするなど森林保全・環境教育にも力を入れています。

さらに同組合は、河川環境の善し悪しは流域における森林環境の影響が大きいことを認識し、日野川上流域である日南町内において平成16年の台風によって被害を受けて地面が露出したスギ人工林跡地へ広葉樹を植栽し、継続して下刈りなどの保育作業を行うことにより森林の再活動を行っています。また、日野町内上流域の風倒木被害を受けた人工林跡地の渓流沿いにおいても広葉樹の植栽を行っています。

現在、電力会社や日野川下流域の米子市内の建設会社に呼びかけ毎年多くのボランティア参加者とともに日南町内の植栽地で下刈りなどの保育活動を実施し、河川環境の保全と森林の重要性を認識してもらうなど、緑化及び環境保全に対する功労は極めて顕著であります。



■伯耆町内の全5小学校の苗木引渡式

平成25年度に鳥取県で開催される「第64回全国植樹祭」で使用する苗木を、「スクールステイ」や「ホームステイ」として県内の学校や団体で育てていただき、森林や環境に対する意識の醸成と開催気運の盛り上げを図っています。

平成23年12月3日（土）に伯耆町農村環境改善センターにて、「第64回全国植樹祭シンボルマーク愛称の表彰式及びみどりの少年団苗木引渡式」が行われました。

伯耆町内の全5小学校（二部小・日光小・溝口小・岸本小・八郷小）のみどりの少年団から各校2名ずつ参加し、第64回全国植樹祭鳥取県実行委員会会長の平井伸治鳥取県知事からシラカシ、アラカシの2種の苗木を受け取りました。

みどりの少年団に平井伸治鳥取県知事から渡されたシラカシ、アラカシの苗木は平成25年春に開催される全国植樹祭の植栽行事に使用されます。



シラカシ、アラカシはドングリのなる常緑性の広葉樹で平成25年春までの約1年半の間、水やりなどの管理を行います。

苗木を受け取った後、児童たちが全国植樹祭に向けたメッセージを発表しました。

「私たちが育てた苗木が、とっとり花回廊に植えられれば、花回廊の森を守る気持ちが益々強くなります。皆さんも一緒に、開催に向けてがんばりましょう！」

■平成25年春「第64回全国植樹祭」を鳥取県で開催します

第64回全国植樹祭鳥取県実行委員会

全国植樹祭は、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるために、毎年春季に天皇皇后両陛下ご臨席のもと、公益社団法人国土緑化推進機構と開催県の共催により行う国土緑化運動の中心的行事で、鳥取県では、昭和40年5月に第16回全国植樹祭を大山町上横原で開催して以来、48年ぶり2回目の開催となります。

開催の前々年度にあたる今年度は、4月に大会準備の事務局となる「全国植樹祭準備室」を森林・林業総室内に設置して、大会のPRや基本計画の検討などを進めています。

平成24年度は、大会準備の「実施計画」やマニュアルづくりを進めるとともに、ふるさとの森、川、海とともに生きる活動（環境保全活動等）に取り組む県民、企業、ボランティア等の多くの皆様が自ら活動していく県民運動「とっとりグリーンウェーブ」を展開して、多くの県民の皆様にこの県民運動を支える「美鳥の大天使」になっていただき開催機運を盛り上げていく予定ですので、皆様の理解と応援をよろしくお願いします。

【第64回全国植樹祭の概要】

1. 開催時期 平成25年5月下旬から6月上旬（開催日は平成24年秋頃決定予定）

2. 開催場所 <式典会場>とっとり花回廊（南部町）

<植樹会場>とっとり花回廊いやしの森（伯耆町）

国立公園奥大山鏡ヶ成高原（江府町）

<荒天会場>米子コンベンションセンター（米子市）

3. 主な準備状況

○大会テーマ

「感じよう 森のめぐみと 緑の豊かさ」

平成23年3月から4月にかけて県内公募し、1,724作品の応募作品のうち、鳥取県立米子南高等学校2年生の宇田川栄さんの作品が選ばされました。

○大会シンボルマーク



平成23年6月から7月にかけて全国公募し、2,273作品の応募作品のうち、千葉県在住のデザイナー伊藤うちゅうぶさんの作品が選ばされました。

○大会シンボルマークの愛称

「トッキーノ」

平成23年8月から9月にかけて県内公募し、4,531作品の応募作品のうち、南部町在住の会員武海博華さんの作品が選ばされました。トッキーノは、11月4日にPRキャラバン隊の隊長として知事から任命され、以後県内の学校や集客施設、各種イベントに参加して、愛嬌をふりまきながら大会PRに励んでいます。

○大会ポスター原画



平成23年7月から9月にかけて県内の小・中・高等学校及び特別支援学校の児童生徒から募集し、545作品の応募作品のうち、鳥取市立西郷小学校5年生の中家秀斗さんの作品が選ばされました。中家さんの作品は、大会開催をお知らせするポスターとして印刷し、県内外の関係先に配布する予定です。

○その他

「基本計画」や「宿泊輸送基本計画」の検討作業を進めるとともに、式典会場に建築する「お野立所」の実施設計や植樹会場の整備検討を進めています。

■国土緑化・育樹運動ポスター原画コンクール

鳥取県と共に実施した「平成24年用国土緑化・育樹運動ポスター原画コンクール」鳥取県予選は小学校の135点、中学校253点、高等学校157点の応募があり、10月14日審査の結果、次の方が受賞されました。

なお、鳥取県知事賞、鳥取県教育委員会教育長賞及び社団法人鳥取県緑化推進委員会理事長賞は、公益社団法人国土緑化推進機構の実施する中央審査に応募しましたが、入選の該当者はいませんでした。

引き続き、今年もご応募よろしくお願いします。

＜敬称略＞

区分	表彰の種類	被表彰者		
		学校名	学年	氏名
小学校の部	鳥取県知事賞	琴浦町立八橋小学校	6	とよしま嶋みのり
	鳥取県教育委員会教育長賞	倉吉市立北谷小学校	6	かとうゆう
	社団法人鳥取県緑化推進委員会理事長賞	鳥取市立岩倉小学校	5	たけもとえり
	佳作	日野町立根雨小学校	1	かめ亀崎翔真
		米子市立就将小学校	4	ごとうわかば
		鳥取市立美保小学校	6	ふくもとたくろう
中学校の部	鳥取県知事賞	鳥取市立河原中学校	2	おくたにみゆ
	鳥取県教育委員会教育長賞	米子市立福米中学校	3	まの真野あかり
	社団法人鳥取県緑化推進委員会理事長賞	鳥取市立鹿野中学校	1	かわせゆり
	佳作	鳥取市立佐治中学校	1	いふくべけんと
		日南町立日南中学校	3	おおたかそこの
		米子市立後藤ヶ丘中学校	3	おがわはるか
高等学校の部	鳥取県知事賞	県立米子高等学校	2	わじままり
	鳥取県教育委員会教育長賞	県立境高等学校	2	わたなべみゆ
	社団法人鳥取県緑化推進委員会理事長賞	私立米子松蔭高等学校	2	かげやましづ
	佳作	県立倉吉総合産業高等学校	1	うちだゆうき
		私立米子松蔭高等学校	3	こたいひろゆき
		私立米子松蔭高等学校	3	えんどうみわ



鳥取県知事賞
琴浦町立八橋小学校 6年
豊嶋みのり



鳥取県知事賞
鳥取市立河原中学校 2年
奥谷 水悠



鳥取県知事賞
鳥取県立米子高等学校 2年
和嶋 真理

会員募集のお願い

社団法人鳥取県緑化推進委員会は、県民の皆様による「緑の募金」等を財源とし、森林の整備や緑化の推進を通じて、緑豊かな住みよい県土の発展及び国際緑化に寄与することを目的として設立された団体です。

本委員会の組織運営は、正会員（県、市町村、団体、個人）及び賛助会員（企業）の皆様からの会費を主要な財源としており、県民の皆様のご理解・御協力の上に成り立っています。

趣旨にご賛同頂ける皆様のご加入を心よりお願い申し上げます。

会員年会費：個人・団体・企業 一口 1万円 以上

お問い合わせ先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目220
(鳥取県農林水産部森林・林業総室)
(社)鳥取県緑化推進委員会
電話：0857-26-7416
FAX：0857-26-8192
URL：<http://www.tottori-green.or.jp>